

令和5年度「全国学力・学習状況調査」 ～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活支援の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学びに向かう力の育成と学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市の児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

2 全国学力・学習状況調査について

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 令和5年4月18日（火）

(3) 調査対象とする児童生徒・調査内容

小学校第6学年児童 13校 364名 国語、算数、児童質問紙調査
中学校第3学年生徒 5校 380名 国語、数学、英語、生徒質問紙調査

3 令和5年度調査の概観

本市の小学校においては、国語・算数ともに平均正答率が全国・県を下回りました。中学校においては、国語・数学・英語ともに平均正答率が全国・県を下回りました。

平均正答率の分布に着目すると、平均正答率が低い児童生徒の割合は全国・県よりも高く、平均正答率が高い児童生徒の割合は全国・県よりも低くなっています。それぞれの児童生徒の現状と課題を把握し、個に応じた取組を通して、学力の定着を図ることが重要です。

評価の観点から見ると小学校では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題が見られます。中学校では「知識及び技能」については一定の成果が見られますが、「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題があります。また記述式問題に対する無解答率の高さも課題であると考えられます。

質問紙調査、質問紙調査と平均正答率とのクロス集計からも、「思考力・判断力・表現力」の向上や「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に課題が見られました。児童生徒が主体的に学び、自分の考えをしっかりともちながら、表現し合える授業のあり方について、研究と改善を行うことが学校教育に求められます。

また、学習習慣や生活習慣の確立のためには、学力と関係が深いと考えられるやり抜く力、自制心や勤勉性といった非認知能力の育成を目指して、学校と家庭、地域社会が連携し取り組んでいくことが必要です。

4 平均正答率（教科に関する調査）

(1) 平均正答率

校種・教科 平均正答率 (%)	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
鳴門市	62.0	57.0	66.0	46.0	44.0
徳島県	66.0	62.0	68.0	51.0	45.0
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

(2) 各教科における正答率が高い児童生徒、正答率が低い児童生徒の割合

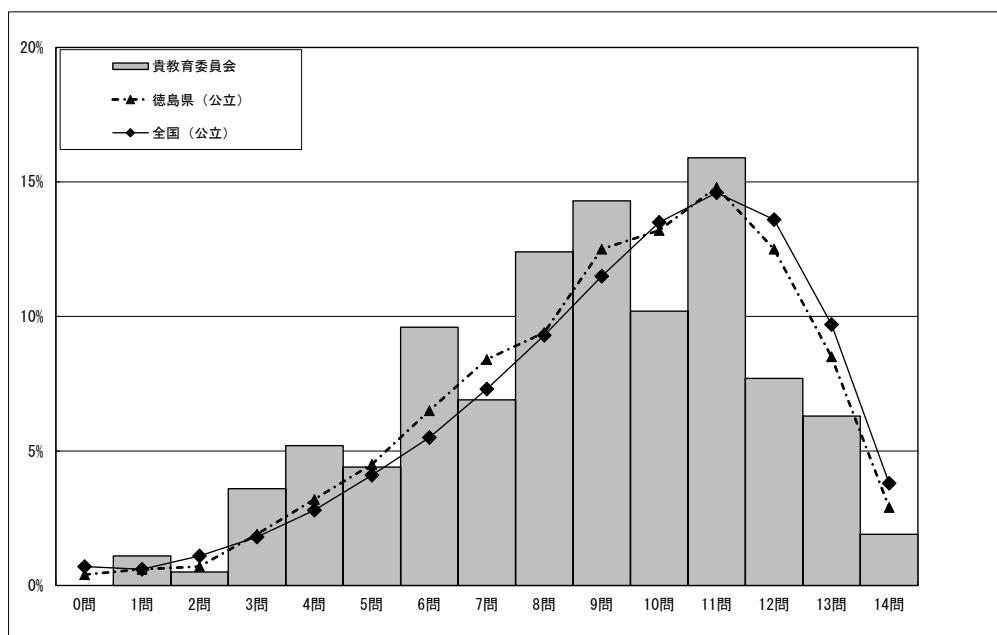
校種・教科 児童生徒の割合 (%)		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
正答率 高い*1	鳴門市	15.9	20.6	40.1	16.3	6.6
	徳島県	23.9	27.0	42.5	21.1	7.6
	全国	27.1	30.0	46.3	19.8	7.4
正答率 低い*2	鳴門市	24.5	14.8	12.2	48.8	48.6
	徳島県	19.4	11.3	11.5	41.2	45.5
	全国	19.5	11.1	10.4	40.7	44.9

- *1 正答率高い 小学校 国語 12/14 (約 86%)、算数 13/16 (約 81%) 以上
 中学校 国語・数学 12/15 (80%)、英語 14/17 (約 82%) 以上
- *2 正答率低い 小学校 国語 5/14 (約 36%)、算数 6/16 (約 38%) 以下
 中学校 国語・数学 6/15 (40%)、英語 6/17 (約 35%) 以下

5 教科に関する調査結果

(1) 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉 (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校国語			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1 二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を、条件に合わせて60字以上100字以内で書く。(記述式)	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	21.2	24.3	26.7
1 三 (1)アウ	【川村さんの文章】の下線部ア(いがい)ウ(きかん)を、漢字を使って書き直す。(短答式)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で、正しく使うことができる。 上段ア、下段ウ→	43.7	49.7	52.8
3 二	ボランティアの方が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて分かったことを40字以上60字以内にまとめて書く。(記述式)	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。	64.0	68.1	70.2

概要

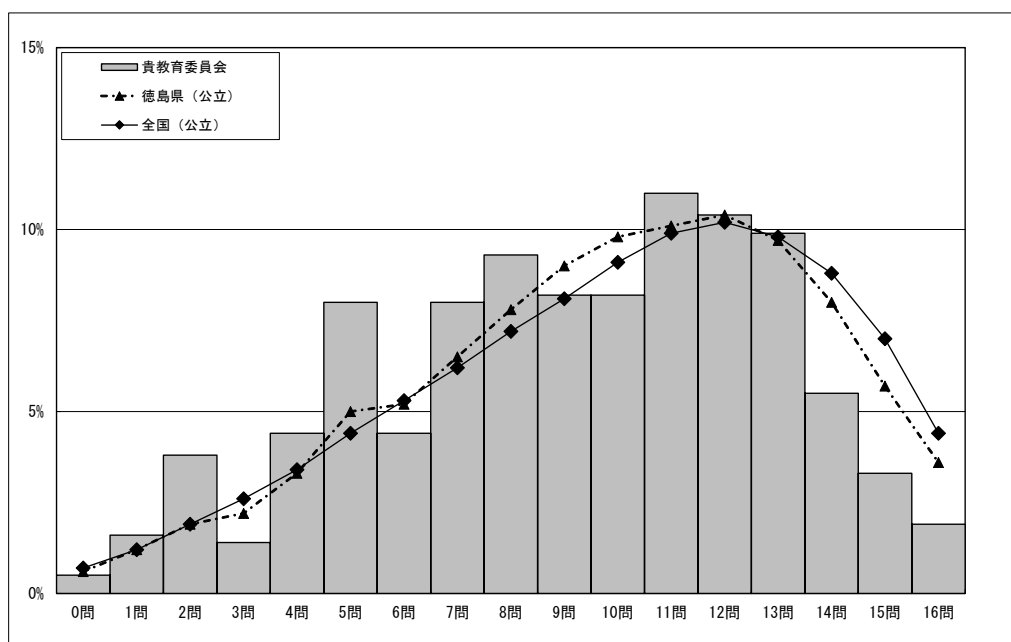
- 学習指導要領の内容では、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」において、正答率が全国・県を5%以上、下回り、課題が見られます。
- 問題1三(1)アウから、漢字の書きとり、同音異義語の定着が不十分であることが分かります。漢字から意味を推測することや文の中で使う経験が不足していると考えられます。
- 文章や情報を正確に読むことに、課題があることが見受けられます。
- グラフを含めた複数の情報を比較したり関連付けたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。
- 解答時間終了後に行う質問で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた割合が全国を大きく下回っています。書く以前にあきらめてしまう、書くことや書く問題に慣れていない、内容を読み取ることができていないことなどが考えられます。

改善の方向性

- ・低学年から、基礎基本の力が身につくように、音読や視写の指導を取り入れていきます。
- ・国語科を中心に、全ての学習の中で低学年から「書く」活動を重視します。
- ・読むことにおいては、文中のキーワードを囲んだり線を引いたりして、何が書かれているかを的確に捉えることができるよう働きかけます。
- ・立場や考えの違いを認識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させます。
- ・必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、これらを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように、指導していきます。
- ・国語科を中心に、全ての学習の中で言語活動を重視し、他者と関わりながら自分の考えを明確にし、表現する授業を展開します。

(2) 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校算数			平均正答率(%)		
			鳴門市	県	全国
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図			
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。 (選択式)	台形の意味や性質について理解している。	47.3	56.9	59.8
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小についてわかることを選び、選んだわけを書く。 (記述式)	底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。	11.8	15.4	20.8
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して分かることを書く。 (記述式)	様々な棒グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。	48.9	55.8	56.2
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ。 (選択式)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。	52.2	60.8	64.6

概要

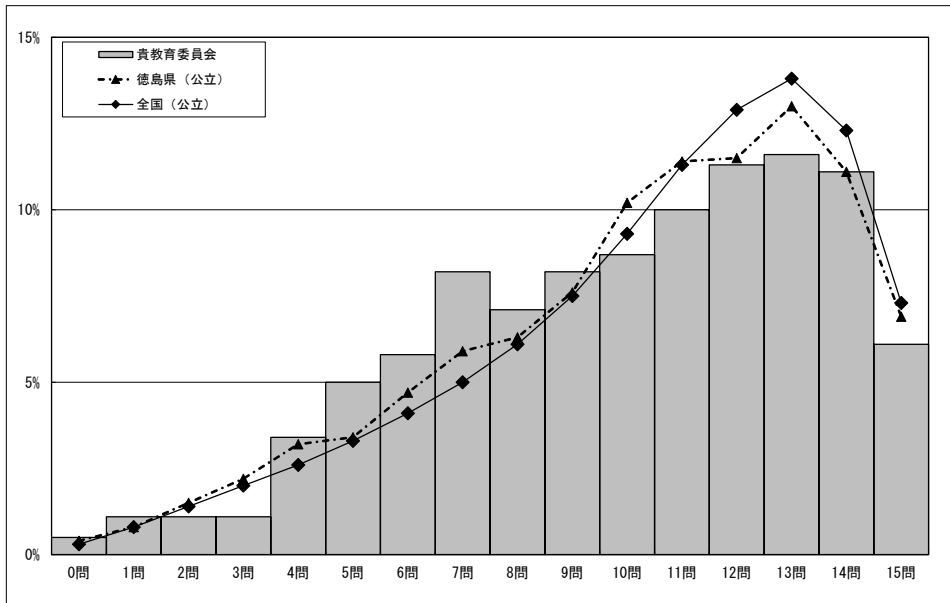
- 学習指導要領の領域「図形」「データの活用」は、正答率が全国・県を5%以上、下回り、課題が見られます。
- 記述式の問題は、選択式、短答式と比べると無解答率が高くなっています。
- 評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、課題が見られます。
- 2 (1) では、四角形が台形であると分かってはいるものの、テープ上での形になると性質の理解があいまいになっています。
- 4 (3) のように長い問題文やグラフを読み取ることや、2 (4) のように既習事項と関連付けながら言葉や数を用いて説明することに、苦手意識が見られます。

改善の方向性

- ・辺の長さや角の大きさなどに着目して「図形の意味や性質、構成する要素」の理解や、理解したことを活用できる力を養います。
- ・具体的な数値が示されていない場合において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導していきます。
- ・複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身につけさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるような活動を取り入れていきます。
- ・物事を順序立てて考える数学的な思考を大切にするため、教師が与えるのではなく児童自らがめあてを考えたり、問題解決のための既習事項を児童が導きだしたりできるような授業を工夫していきます。
- ・問題解決の際、式やグラフ、表、文章と関連付けて考えたり、読み取った内容を基に、言葉や数を用いて書いたり説明したりする学習活動を設定します。

(3) 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校国語			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1	四 インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。(記述式)	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。	73.7	78.8	82.5
3	四 具体例として「判じ絵」を選択し、その解読の面白さが伝わるように、解読の仕方を書く。(記述式)	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。	58.9	66.5	72.1
4	三 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。(記述式)	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	34.5	43.3	50.0

概要

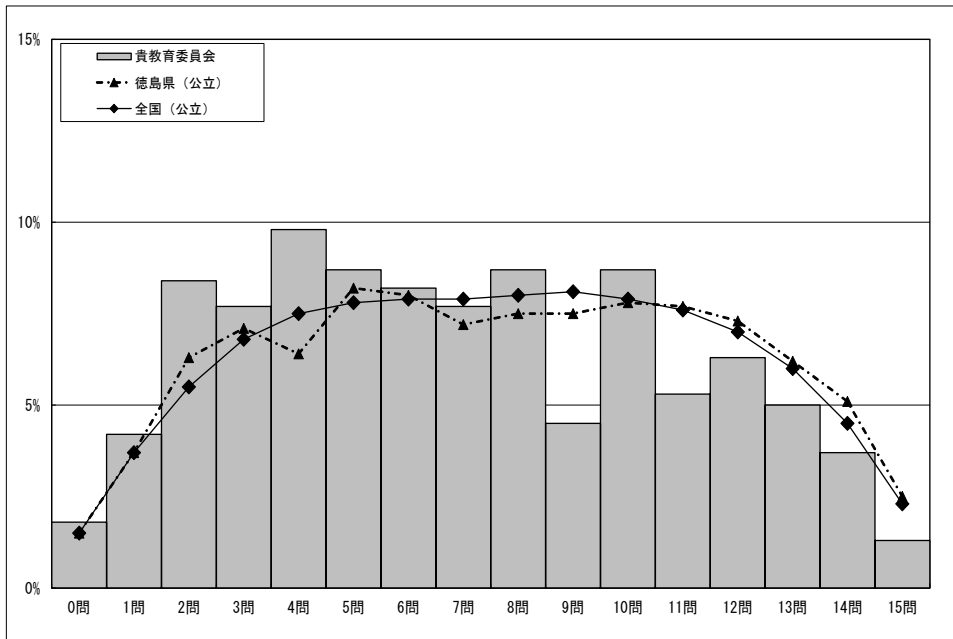
- 学習指導要領の内容では、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、正答率が全国・県平均を上回りました。
- 「短答式」の問題では、正答率が全国・県平均を上回りました。
- 「記述式」の問題では、正答率が全国より大きく下回り、「思考・判断・表現」に課題が見られます。
- 1四では、①星野さんの話の内容を具体的に書く、②インタビューを通して自分がどのように考えたかが分かるように書く、という2つの条件が求められています。内容を検討することや、聞き取ったことを基に目的に沿って自分の考えをまとめることに、課題が見られます。
- 3四では、全国・県より正答率が大きく下回りました。自分の考えや伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについて、不得意な傾向がうかがえます。

改善の方向性

- ・複数の条件に合わせて書くことができるために、問題の意図や条件を正しく読み取ること、文章中から条件に合う部分を見いだすこと、与えられた字数や表現方法に従って書くという力が必要です。授業の中で、意図的に条件を提示して、思考、判断、表現する機会を設けていきます。
- ・複数の事例の中から、どの事例が自分の考えの根拠となるのかを検討したり、取り上げる根拠をどのように文章中に記述するとよいかを考えたりする活動を充実させていきます。
- ・文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするために、内容の理解はもとより、自分の知識や経験と結びつけ、理解や考えを具体的で明確なものにしていくことができるよう指導していきます。

(4) 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校数学			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
5	女子 50 m自由形の記録の、最小の階級から 29.00 秒以上 30.00 秒未満の階級までの累積度数を求める。 (短答式)	累積度数の意味を理解している。	41.4	47.3	46.1
7 (1)	1961 年～ 1975 年の四分位範囲を求める。 (短答式)	四分位範囲の意味を理解している。	60.4	68.1	65.7
7 (2)	「2006 年～ 2020 年の黄葉日は、1991 年～ 2005 年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。 (記述式)	複数の集団のデータの分布傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	23.0	31.2	33.6
9 (1)	2つの直線 BC と直線 AE が平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する。 (記述式)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。	21.9	28.6	32.1

概要

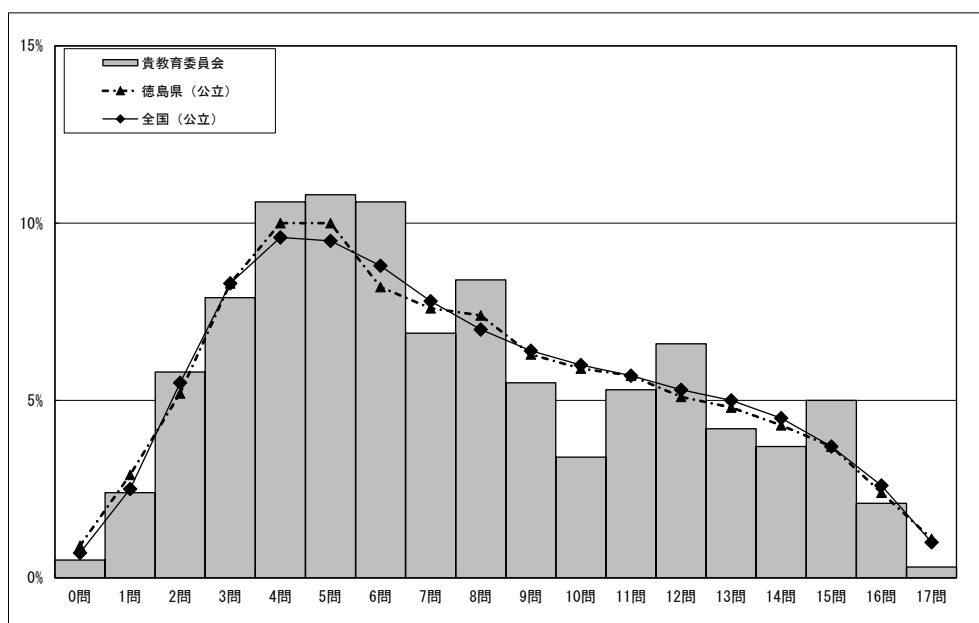
- 学習指導要領の領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」では、いずれも正答率が全国・県を下回っています。特に、「データの活用」は、全国・県との正答率の差が大きくなっています。
- 評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」、どちらにも課題が見られます。
- 全国・県と比較して、特に正答率が下回っている評価の観点は「思考・判断・表現」です。この観点の問題はすべて問題形式の「記述式」となっており、「記述式」問題の無解答率が高くなっています。
- 知識として記憶していても、それらを活用することに課題が見られます。
- グラフや図、式など多くの情報から、解決に必要な情報として、どれをどのように用いるとよいかを読み取り、数学的に説明することに苦手意識をもっていることが考えられます。

改善の方向性

- ・習得した知識や技能を活用する場を、授業の中で多く設定していきます。
- ・授業では、数学的な語句を伝えるだけではなく、図形とセットで理解し、その数学的な語句について、生徒自身が自分のことばで説明ができるよう指導していきます。
- ・根拠や考察を、グラフや図、式では表現できるものの言語化することが難しい生徒や、構成できない生徒については、その状況に特化した練習をする機会を設定していきます。
- ・「思考・判断・表現」の中でも、生徒が具体的にどこにつまずきを感じているのかを教師が理解し、その生徒に合う手立てを行っていきます。

(5) 中学校 英語

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校英語			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。 (選択式)	文と文との関係を正確に読み取ることができる。	54.4	55.9	59.8
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。 (記述式)	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。	15.6	19.5	19.5
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。 (記述式)	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。	8.2	8.9	7.4

概要

- 学習指導要領の領域「書くこと」の問題形式「短答式」においては、全国より正答率が高くなっています。
- 評価の観点「知識・技能」の平均正答率は、全国を上回っています。
- 「思考・判断・表現」については、全国・県の平均正答率を下回っており、課題が見られます。
- 学習指導要領の領域「読むこと」について、全国・県よりも正答率が低くなっています。
- 10では、正答率が全国を上回っているものの県は下回っています。無解答率については全国 21.4 %、県 24.9 %のところ、本市は 31.1 %であり、無解答率の割合が高くなっています。コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて自分の考えや気持ちなどを、まとまりのある文章で書くことに、抵抗感がある生徒が多いと考えられます。

改善の方向性

- ・自分の考えや気持ちなどを英語で書いたり話したりして伝え合うという、領域を統合した言語活動を行っていきます。
- ・文章を読んで概要を捉える際には、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることのないようにします。段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることができるようにしていきます。
- ・読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や、自分の考えや気持ちなどを話したり書いたりして表現する言語活動を継続的・計画的に取り入れていきます。
- ・英語を聞いたり話したりする力を一層伸ばすために、ALT や外部人材、ICT を効果的に活用していきます。

6 児童生徒質問紙による調査結果

(1) 肯定的な回答(「1.当てはまる」等)の割合が、全国を上回っている項目より

小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R5年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
8	人が困っている時は、進んで助けますか。【規範意識】	49.3	45.6	3.7
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。【自己有用感】	78.6	75.3	3.3
28	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。【地域や社会に関わる活動の状況等】	49.9	45.7	4.2
29	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。「ほぼ毎日」と回答。【ICTを活用した学習状況】	33.6	28.2	5.4
55	英語の勉強は好きですか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】	43.6	33.6	10.0

中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R5年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
16	家で自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含む)【学習習慣、学習環境等】	21.1	15.3	5.9
30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。【地域や社会に関わる活動の状況等】	23.3	19.6	3.7
32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。【地域や社会に関わる活動の状況等】	33.4	26.2	7.2
58	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(数学)】	43.0	38.8	4.2
63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】	19.8	15.7	4.1

(2) 回答率が全国を下回り、課題と考えられる項目より

小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R5年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
4	自分にはよいところがあると思いますか。【自己肯定感】	35.2	42.6	-7.4
24	読書は好きですか。【学習習慣、学習環境等】	32.2	39.4	-7.2
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。【学級活動】	25.2	31.8	-6.6
45	国語の授業の内容はよく分かりますか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】	35.2	40.4	-5.2
53	算数の授業の内容はよく分かりますか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数)】	39.8	45.2	-5.4

中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R5年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
4	自分にはよいところがあると思いますか。【自己肯定感】	33.2	37.2	-4.0
33	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。「ほぼ毎日」と回答。【ICTを活用した学習状況】	7.5	28.1	-20.6
34	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。【ICTを活用した学習状況】	53.2	58.7	-5.5
36	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	16.6	21.9	-5.3
69	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】	19.5	42.9	-23.4

7 クロス集計の結果より

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、傾向と改善の方向性を★に示しました。

網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

小学校

(1) 朝食を毎日食べていますか。		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
選択肢				国語 (14問)	算数 (16問)
1	している	289	80.1	63.7	59.1
2	どちらかといえば、している	46	12.7	58.5	50.8
3	あまりしていない	18	5.0	56.3	53.5
4	全くしていない	8	2.2	36.6	39.1

★朝食を毎日食べている児童の正答率が、高くなっています。子どもたちのために、早寝・早起き・朝ご飯の大切さを繰り返し伝え、家庭との好ましい連携を図っていきます。

(32) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
選択肢				国語 (14問)	算数 (16問)
1	発表していた	81	22.4	67.5	65.2
2	どちらかといえば、発表していた	121	35.2	64.7	60.1
3	どちらかといえば、発表していなかった	96	26.6	57.6	50.8
4	発表していなかった	44	12.2	58.1	54.0
5	考えを発表する機会はなかった	13	3.6	49.5	39.4

★考えを伝えるために、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した児童は、正答率が高くなっています。資料や文章と関連づけ、自分の考えを工夫して伝える場面を授業に取り入れていきます。

(37) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
選択肢				国語 (14問)	算数 (16問)
1	当てはまる	99	27.4	65.1	61.7
2	どちらかといえば、あてはまる	171	47.4	63.6	58.3
3	どちらかといえば、あてはまらない	80	22.2	56.6	52.0
4	当てはまらない	11	3.0	51.9	41.5

★振り返りをするのが大切であることを表している結果です。自分の学習を見つめ直し、次の学習に生かす習慣が身につくように、授業の展開や家庭学習の在り方を工夫していく必要があります。

国 1 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。		児童数 (人)	児童数の 割合 (%)	平均正答率 (%)	
選択肢				国語 (14問)	算数 (16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	264	72.5	66.8	62.3
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	68	18.7	48.0	42.1
3	書く問題は全く解答しなかった	11	3.0	43.5	48.9

★最後まで書こうと努力した児童は、その正答率も高くなっています。最後まであきらめず、粘り強く学習や生活に取り組もうとする「やり抜く力」と「書く力」を育てていきます。

中学校

(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)		
				国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1	当てはまる	269	73.7	67.4	47.0	44.8
2	どちらかといえば、当てはまる	79	21.6	62.4	44.2	40.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	5	1.4	54.7	30.7	44.7
4	当てはまらない	3	0.8	53.3	24.4	39.2

★人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合が高く、「当てはまる」と回答した生徒の正答率が高くなっています。道徳教育、人権教育、キャリア教育等、心の教育の充実に、引き続き取り組んでいきます。

(37)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)		
				国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1	当てはまる	90	24.7	69.5	52.4	48.6
2	どちらかといえば、当てはまる	195	53.4	65.4	45.1	42.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	64	17.5	65.3	44.5	43.4
4	当てはまらない	15	4.1	55.6	32.4	32.5

★主体的に学習に取り組む態度が、学力にも関係することが考えられる結果です。授業において自分で考え、自分で考える機会を取り入れるとともに、その態度を評価し、さらに意欲を高めていきます。

(38)	1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)		
				国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1	当てはまる	74	20.3	70.4	54.4	50.2
2	どちらかといえば、当てはまる	158	43.3	65.9	45.4	42.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	100	27.4	67.3	46.4	45.8
4	当てはまらない	29	7.9	54.3	31.5	31.2

★学んだことを他教科へ生かし、自分の考えをまとめる活動は、学力にも関係していると考えられます。授業において、カリキュラムマネジメントを意識し、考えをまとめる時間を確保していきます。

数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)		
				国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	174	45.9	79.0	63.1	56.3
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	166	43.8	57.2	34.0	34.4
3	書く問題は全く解答しなかった	29	7.7	44.6	21.8	34.3

★解答を言葉や数、式を使って説明することは、数学科だけでなく他教科の学力にもつながることを表している結果です。生徒のつまづきを見取り、説明の仕方や説明を書いたり伝えたりする時間の確保等、指導の工夫を図ることが大切であると考えられます。

8 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 本調査の結果と分析から、「学力」を多面的に捉え直すとともに、「学力向上において目指す本市の児童生徒の姿」を明確にし、その具現化を図ります。
- 今年度、重点的に取り組むこととして、①「やり抜く力」を育てる。②「書く力」を育てる。この2点を本市共通テーマとします。各校で作成している「学力向上《焦点化シート》なると版」に記載するとともに、各校の実態に即した具体的方策を立て、組織的・継続的に取り組みます。
- 本調査の調査結果を各校において分析する中で、児童生徒のつまづきがどこにあるのかを把握します。各校で、課題を各教科等の年間指導計画にも反映させ、系統性を持たせて取り組んでいけるよう、カリキュラムマネジメントを推進します。
- 「なるとうざっ子学力向上パッケージ事業」において、本市独自の特色ある教育を実施し、児童生徒の学びに向かう力や学力を育み、一人一人の無限の可能性を伸ばします。
- 児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討し、市全体で取り組んでいきます。
- 本市の児童生徒の課題をふまえ、若手教職員研修をはじめとする教職員の研修内容の充実を図ります。児童生徒の「知識・技能」の定着、「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて日々、授業改善に取り組んでいきます。
- 目標をもち、あきらめずに努力できる子どもを育成するためにキャリア教育をはじめ、学校の教育活動全体の中で、やり抜く力や自制心など、非認知能力の育成を図ります。
- 就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの連続性」を意識してともに取り組んでいきます。
- 「学校評価・鳴門プラン」を活用し、PDC Aサイクルを生かした学力向上を図ります。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣の定着を図りましょう。
- 時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 夢や目標について語り合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組めるような言葉かけをしましょう。
- お子さんとの会話を大切にしましょう。学校での出来事や友達のこと、興味をもっていることなどを語り合い、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。